クラブ創設の問題や課題の糸口を探ろう！

～市町村･府県の枠を超えて～

平成17年度第2回近畿ブロッククラブ育成推進協議会報告

平成17年度第2回近畿ブロッククラブ育成推進協議会が12月10日（土）、京都市の京都テルサで開かれ、近畿各府県の指定クラブ代表ら総勢54名が、クラブ創設に向けた「啓発広報」、「財源確保や会費設定」、「既存団体との連携のとり方」、を主テーマにさまざまな情報を交換した。

この協議会は育成指定クラブが抱えている問題や課題を明らかにし、情報を交換し共有することによって、クラブ創設支援へ向けたネットワークの強化を図ることが主な目的。第2回協議会では広報誌を作成したクラブが「広報誌」を持ち寄り、交換する試みも行った。真似することから始めるのも一つの方法との考え方で行った。

開会式では、地方企画班の松田雅彦班長と日本体育協会の根本光憲課長が挨拶を行った。松田班長は「地域への想い」「スポーツへの想い」「人への想い」の3つの想いを持って挑んでいただきたいと。根本課長は「現在全国6ブロックで第2回協議会が開催されている最中。どのブロックも熱心に前向きな意見が出ている。近畿ブロックも活発な情報交換を期待します。」と挨拶した。

<第2回近畿ブロック　プログラム>

□開　会　----------13:00
□事例発表　（60分）
　1. 総合型クラブの啓発及び広報のポイントについて
　　発表者::岡尾惠一さん(京都府体協クラブ育成アドバイザー)
　2. 財源確保及び会費設定について
　　発表者::中松秀夫さん(滋賀県体協)
　3. 既存団体との関係のとり方及び施設確保について
　　発表:者:浦井善宏さん(奈良県体協クラブ育成アドバイザー)
□少人数によるグループ別ミーティング　（90分）
□グループ別発表、総括･まとめ　（60分）
□閉　会　----------17:00

この後、3つの主テーマについての事例発表、少人数に分かれてのグループ別ミーティング、グループ別発表と続き、今後のクラブ創設へ向けた問題や課題解決の糸口（ヒント）を探った。

アイディアを出し、創意工夫が重要　～テーマごとの事例発表～

～いつ、だれに、何を発信するのか、よく考えよう～　「京都府の岡尾さん」

クラブの啓発･広報のポイントをテーマに事例発表した岡尾さんは、クラブがどんな目的で、だれに対して呼びかけをするのか、クラブの中でよく考え･議論することが大切だと語り、発信内容を討議しようと呼びかけた。また、「会員の募集を目的とした広報」「会員の結束を目的とした広報」について、具体的な事例を披露した。マスコミとの連携については人間関係づくりも大切。五輪選手の指導や話題性のあるイベントにはすぐに関心をもってくれるようだと話した。

～ヒントは身近なところに、いっぱい～　「滋賀県の中松さん」

財源確保と会費の設定について発表した中松さんは、話し合いで出た意見を紙面に落として整理することも大切。また、支出の無駄を無くす効率的な事業プログラムの運営計画も要検討。公共施設や地域の財産である学校･行政との連携さらには地域企業（協賛）のスポーツ施設など、魅力ある活動拠点を確保し、多くの会員を獲得しよう。クラブハウスは事務処理と会議の場だけでなく、飲食等による副次的収入を生み出す。財政の自立化を目指し、受益者負担意識の徹底と活動に見合う会費の設定を。と呼びかけた。具体例として、レストランなどに行くとアンケート用紙が置いてあるが、特典がある用紙には書くが、無いところは書かない。アイディアを店は買っている。弁当の斡旋手数料や自動販売機の設置手数料、チャリティーゴルフなど、身近なところに財源確保のヒントがあるのではないか。ちょっとした工夫を。と語った。

～何のため？ だれのため？ 原点に返ろう～　「奈良県の浦井さん」

既存団体との関係のとり方と施設確保をテーマに発表した浦井さんは、何のために、誰のために総合型クラブを育成するのか、原点に返って考えることが大切。と話し、行政や既存団体とケンカをしたらダメ。行政への不満、行政内の仕事量の不満もあろうかと思うと指摘。総合型を知ってもらいたい人に知られないのが奈良県の現状と分析。2年間で補助は終わるということを見据えたクラブ育成を。そしてスポーツを通じた「まちづくり」が大切だと思う。と結んだ。

各論より、総論で一致　～少人数で話し合う～

～創設母体が異なるクラブ代表らが、違いを越え、同じテーブルで～

グループ別ミーティングは、事例発表の3つのテーマごとに6グループに分かれて行った。市町村体育協会や体育指導委員、スポーツ少年団、体育振興会、自治会など、創設母体が異なるクラブ代表らが、地域環境や立地条件、進め方の違いがある中で、同じテーブルで話し合った。各グループともそれぞれが思い思いに発言し、会費のあり方や設定についても意見の違いがあったが、物の見方･考え方が違って当たり前ということを感じ取っていた。

グループ別の発表内容や感想の要旨は次のとおり。

総合型クラブの啓発及び広報のポイントについて

【グループ1】　広報方法として有効なのは学校を通じて、次に自治会を通じて、口コミと続く。有線放送を活用しているところもあった。クラブの愛称やスタッフの写真を入れ、親しみやすい内容の広報誌を作成しているクラブもあった。「○」「×」方式の単純なアンケート調査で広報しているところや市長さんの挨拶や言葉を通じて総合型クラブの啓発と理解を求めていくクラブもあった。パン屋さんケーキ屋さんと連携した啓発や4コマ漫画を活用した方法も紹介された。

【グループ2】　地域の実情に応じた広報の工夫が大切であり、口コミに勝る広報はないとの意見もあった。広報誌をシルバーさんにポスト配布しているクラブもあった。民間主導と行政主導が分かれ目のように感じた。クラブ育成は規約などの決まりことを決めてから進めていくものだと思っていたが、グループで他の人の意見を聞き、そうではないことに気づき、考えさせられた。

財源確保及び会費設定について

【グループ3】　収支がゼロになるのが良いのか。会費に関するアンケート調査では、月500円は「OK」、年6000円は「×」という調査結果がでた。同じ金額なのになぜか。割安感を出す必要があるのでは。基準が難しい団体割引やファミリー割引などを設定することも視野に入れる必要あり。クラブの理念をしっかりおさえ、フリーマーケット（販売スペースの斡旋）などスポーツから離れた視点も必要。会費を上げることによって会員が減るのではないか不安の声も。会費を上げる根拠が必要。財源確保として市町村の援助も必要。賛助会員の呼びかけ、他団体にクラブの理念を賛同してもらう努力も必要。

【グループ4】　市町村において、社会教育団体などに支出されている補助金を行政として一括して総合型クラブへ支援されることを期待したい。大学との連携によって、学生と協力し事業展開や若手の育成･活用の必要性を感じた。会費が先か、内容（質）が先か、考えなければならない。会費無料というクラブの考え方に信じられないという意見もあった。地域性があるので、グループでまとめることはできなかったが、立場の違いを感じ、話し合いの意義は大きかったと感じた。

【グループ5】　委託金がなくなった時のことを考えた財源確保を今のうちからしておく必要がある。財源が先ではないかとの意見も。委託金の使途について人件費6割、運営費4割はうまく使えないようだ。住民の満足度によって会費を設定する必要もある。ファミリー会費の設定なども必要。

既存団体との関係のとり方及び施設確保について

【グループ6】　何よりコミュニケーションづくりが大切。学校やスポーツ少年団などの既存団体との関係、協力体制づくりには委員として学校の先生や既存団体の方々に指導者として入ってもらうのが効果的である。各種団体への説明会の積み重ねや行政の後押しも必要である。

得たヒントを持ち帰り、役立ててほしい　地方企画班の福井さんが懇請し閉会

閉会式では、地方企画班の福井勝治さんが、「本日の協議会で色々なヒントを得たと思う。ぜひ、地域に持ち帰り、役立ててほしい。この後の懇親会でも意見交換し、会費以上に得るものを持ち帰ってほしい」と挨拶し、第2回協議会を終了した。

（報告：近畿ブロック地方企画班員　立野　誠次）